

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 自己啓発 | ガンジー伝 (4)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

ガンジー伝 (4)

1915年、45歳のガンジーは故郷インドへ帰ります。

南アフリカでの彼の業績は知れ渡っており、たくさんの人々がガンジーを出迎えてくれました。

ガンジーのインドでの活動は、貧しい人びとを救うことから始まります。

ガンジーは、不可触民（カースト制度のさらに最下層の人々）、貧しい農民、貧しい工場労働者の味方でしたが、仲間の多くは不可触民の受け入れに反対でした。

彼はまず不可触民を救う運動に取り組みます。

ガンジーは各地を回り、英国人地主や紡績工場に対する、小作農民や労働者たちのストライキの支えになったりもしました。

社会に大きな影響力を持つようになっていたガンジーのもとに、インドを統治する総督が助けを求めに来ます。

第1次世界大戦を戦う英国の手助けをするため、インド人の義勇兵を募って欲しいとの頼みです。

平和主義者たちは反対しますが、ガンジーはその頼みを受け入れます。

彼は、インド人が大英帝国の市民としての権利を主張したいのならば、協力を求めてきた英国に尽くさなければならぬと考えたのです。

インドの義勇軍は英国兵らとともに戦いに出て行きました。

大きな犠牲を払いながらも勝利はしましたが、この戦争で英国の力は大きく衰えてしまいました。

インド人たちは英国とともに戦った以上、自分たちが人間としての尊厳と平等の権利を勝ち取ったものと考え、新しい意気込みでいっぱいでした。

しかし英国がインドに対して示した理解と、インドの自治という口約束は守られませんでした。

ガンジーはここで初めて、英国人によるインド政対立する決心をし、「ハルタル」という一種のゼネストを人々に提案しました。

集団で仕事や学校を休み、祈りをささげたり行進をしたりして、権力者に抵抗の意志を示そうというものです。

これが英国の統治を終わらせることになった28年間の闘いのスタートでした。

ガンジーに組織された「ハルタル」は多くの人々によって支持されましたが、地方によってはその抗議行動が暴動に発展してしまいました。

ガンジーは首謀者を非難し、すべての運動を中止させます。

不服従運動を成功させるためには、まず人々が服従の訓練をつまなければならないことに気がついたのです。

(5) に続く

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>> 一覧へ戻る

[教育カリキュラム](#)

[日本国憲法](#)

[傾聴](#)

[語り部スキル](#)

[▶ キーワード検索はこちら](#)

[▶ サイトマップ](#) [▶ このサイトについて](#) [▶ 個人情報保護の取組みについて](#)

[▶ ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.